

令和元年度

広瀬家・草野家保存改修工事見学会の報告 (公社)大分県建築士会日田支部 広報部 秋 和夫

令和元年6月25日の15時より、豆田町で工事が進められている国指定史跡である廣瀬家と、国指定重要文化財である草野家の工事現場の見学会が行われました。豆田地区の住民、本伝会会員、大分県建築士会会員及び行政職員など50名程度が参加し、設計監理者や工事担当者による説明を受けました。

■廣瀬家保存整備事業 ～主に解体工事

設計監理者；NPO 法人本物の伝統を守る会

■草野家住宅保存修理工事 ～主に組立工事

設計監理者；公益財団法人

文化財建造物保存技術協会



(廣瀬家所有者による挨拶)

廣瀬淡窓の生家である廣瀬家は、延宝元年(1673)に初代五左衛門が、日田に移住したことに始まりません。主屋は、安政3年(1856)に建設され、元治2年・慶応元年(1865)に西側、慶応3年(1867)に東側が増築されています。座敷は、天保4年(1833)に建設され、平成21年(2009)に修理されています。時代ごとに敷地を拡げて、建物が建設され、必要に応じて建て替えが行われてきた主屋は、時代の要請に応じたもので、廣瀬淡窓旧宅の一つの歴史でもあります。

今回の保存整備事業として、廣瀬家主屋は経年劣化による保存修理が行われており、日田を代表する商家廣瀬家の当時の構造や特徴を後世に伝えるた

めの公開活用を目的に、旧家における建物のうち一番重要な役割を持つ北側主屋・座敷棟を破損状況に基づき修理を行うものです。史跡としての価値を損なわないよう、古絵図・古写真など史料や痕跡調査により、復元的手法を用いて保存修理を行うとともに、併せて耐震診断と耐震補強も施しています。

(配布資料より文面を抜粋して引用)



(廣瀬家保存整備見学会の様子)



(草野家の見学受けの様子)



(草野家屋根修理の様子)

草野家は、寛永 18 年(1641)に初代が豆田に居を構えたのを創始と伝え、元禄年間に現敷地の北半部に移り、四代目が分家して南の土地に屋敷を構えたのち、18 世紀末に北側の本家が途絶えた後、六代目が合併しました。明和 9 年(1772)の豆田大火で屋敷は焼けたが、隠宅蔵と座敷蔵と現主屋仏間部の一部が焼け残り、主屋・家具蔵を東側の道路沿いに再建しました。その後、増改築を繰り返し、現在の住宅や南側の駐車場にも蔵が立ち並んでいましたが、昭和 55 年(1980)までに解体され、昭和 58 年(1983)に現住宅が建てられ、現在の屋敷構えとなりました。平成 21 年(2009)に重要文化財に指定された草野家の保存修理は、建築年代や修理履歴、破損状況により、建物ごとに修理方針が異なります。今回の保存修理と併せて耐震診断を行い、必要に応じて補強を施します。(配布資料より文面を抜粋して引用)

《報告後記》

現在の建物建設工事では、生産性を上げるためにコストダウンと職人不足を補う目的で、各企業やメーカーが競い合っって省力化・利便性や長寿化を追求しており、手間のかかる伝統技法は存続しにくくなっています。その背景には、職人の低賃金や、独自の間違った技法の習得などのどうしようもない時代の流れによる社会的な背景があると感じています。今回の保存修理は、そのひとつひとつのデータを後世に伝えるための手段であり、建築に係る者が、当時の苦労や考え方を残しておくべきではないものです。

現実には、莫大な資金と維持費はもちろん、伝統技法を伝えるべき職人の高齢化と若手職人の不足と技量低下は打開策のない状態です。今回の見学会が、その解決策の一端となることを期待しています。

(広報部長 秋より)



(草野家保存修理見学会の様子)